

九州北部豪雨災害からの復旧・復興

■ 林 裕 二* ■

1. はじめに

未曾有の被害をもたらした平成29年7月九州北部豪雨から3年半が経過した現在、朝倉市では平成30年3月に策定した「朝倉市復興計画」に基づき、「復旧期」から「再生期」、すなわち被災前の活力を回復し、地域の価値を高める段階と位置づけ、国や県などの支援をいただきながら、地域とともに着実に復旧・復興を進めています。



2. 朝倉市の概要

朝倉市は、福岡県のはほぼ中央に位置し、東西約25km、南北約15km、総面積246km²で、南部に筑後川が東西に流れ平野を形成、北部は面積の8割を占める山林を形成し、その山間に急峻な中小河川が南北に流れています。また、福岡都市圏を含む北部九州地域に水道用水を供給する3つの水源ダムを有する水源地域でもあります。

人口は約5.2万人、約2.1万世帯、2006年3月に甘木市、朝倉町、杷木町が合併して誕生した地方都市で、豊かな自然、きれいな水、肥沃な大地に恵まれ、「博多万能ねぎ」をはじめとする新鮮な野菜と、柿や梨などのおいしいフルーツの産地です。また、城下町の風情を残す小京都「秋月」やダブル美肌の湯で知られる「原鶴温泉」、アフガニスタンでの用水路建設のモデルとなった筑後川

の「山田堰」、三連水車を代表とする「水車群と堀川用水」など自然、歴史、文化に彩られた魅力的な観光資源が随所に点在しています。

3. 平成29年7月九州北部豪雨災害の概要

7月5日、朝鮮半島南部から中国地方に伸びていた梅雨前線が午前中のうちに南下し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となりました。このため、正午頃から夜遅くにかけて、筑後地方から大分県西部に伸びる線状降水帯が形成され猛烈な雨が降り続き、福岡管区气象台は九州で初めて「大雨特別警報」を17時51分に発表しました。朝倉市では15時38分までの1時間にこれまでの極値を更新する129.5mm、9時間で774mmを観測しました（図-1）。

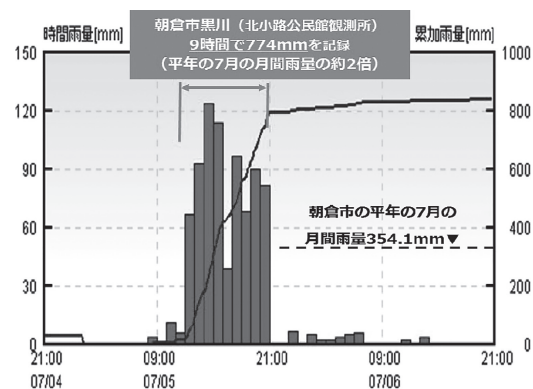
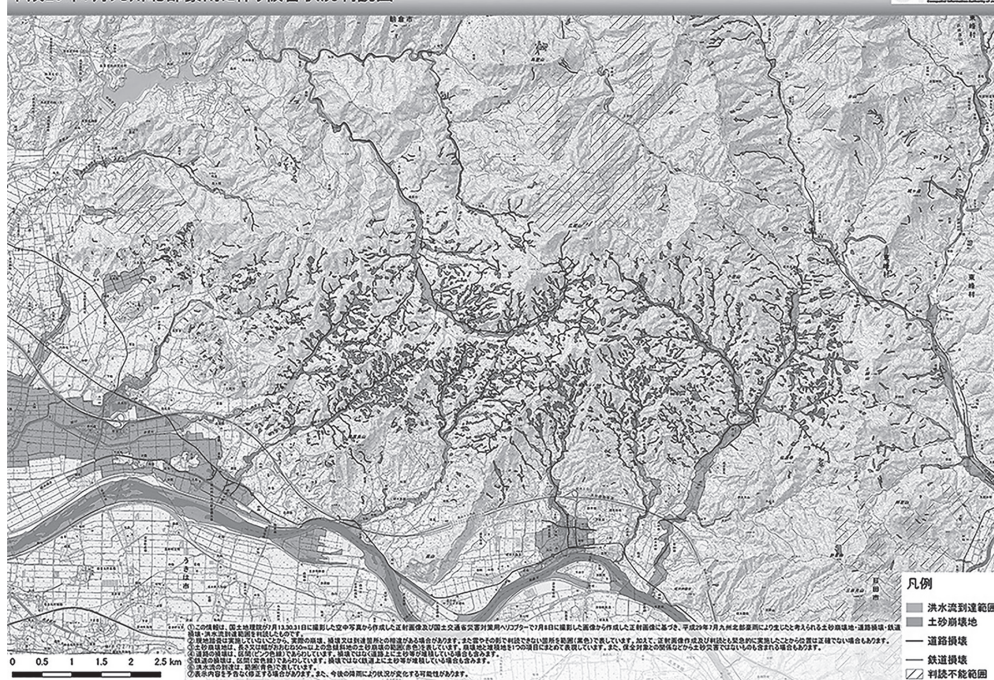


図-1 雨量記録（出典：福岡県）

* Yuji Hayashi 福岡県朝倉市長

平成29年7月九州北部豪雨に伴う被害状況判読図



図－2 土砂崩壊地や洪水到達範囲の概要（出典：国土地理院）

この短時間、集中的な豪雨により、約450箇所の山地崩壊が発生し、土砂、流木が洪水とともに溪流から急勾配の山地河川に流れ込み、谷底平野の家屋や田畑を襲いました。災害直後の航空LP測量や斜め写真等より算出された発生土砂は約1,000万㎡、発生流木は約21万㎡と推定されています（図－2）。被害の大きかった一因として、花崗岩類や泥質片岩で真砂土等粘性が弱い地質であったことや河川が急こう配であったことが専門家から挙げられています。

この豪雨により、残念ながら33名（関連死含む）の尊い人命が失われ、行方不明者2名など人的被害も発生しました。

土砂・流木による落橋や埋没、また道路の寸断などの被害が相次ぎ、一時孤立が発生し、河川流域では住宅地や農地の浸水被害が発生しました（写真－1）。

今回の災害では最大11箇所の指定避難所を開設しましたが、指定避難所以外にも多くの住民が避難しており、県立高校や病院等、避難できる場所



写真－1 赤谷川流域（右）と白木谷川流域の被災状況

に避難した状況が見られました。避難所開設は、11月25日までの約5カ月間と長期に及びました。

住家被害は、り災証明交付状況による全壊家屋が260戸、被害全般については1,600戸を超えています。このため、応急仮設住宅について、県が市内3箇所に85戸を建設し、借上型（借家）にはピーク時で286世帯が入居されました。この他、公営住宅への入居や親類宅への避難など、多くの被災者が自宅に帰れずに生活されていました。

4. 災害査定と緊急応急対策

被害が甚大であり、状況把握に時間を要していたことから、国土交通省リエゾンと TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）による現地被災状況調査の支援をいただき、被害状況を把握しました。その後、市役所に3つの部署（①公共土木施設災害復旧、②農地等・林道災害復旧、③家屋・土砂流木等対策）を新設し、約86団体から1,000人を超える職員派遣支援をいただくとともに、九州地域づくり協会や福岡県防災エキスパートなどの技術的な助言・指導を受けながら、年内に査定を終えることが出来ました。

また、発災直後から被害の拡大や二次災害防止のため、国、県、市の関係機関により、一斉に緊急応急工事が動き出しました。

復旧に必要不可欠となる道路の啓開作業、流路が埋塞している河川の土砂流木除去、崩壊した護岸を大型土嚢や袋詰め玉石で覆う仮河道整備が進められました。更に、残っている家屋を二次災害から守るため、溪流の不安定土砂や流木の除去に加えて土砂・流木の流出抑制を目的とした仮設砂防堰堤工や強靱ワイヤーネットが設置されました（写真－2）。

これらを地域住民に発信しながら、かつ、地域の協力を得ながら緊急的に実施するためには関係機関との事業調整が必要であったため、市が窓口となり、「災害復旧関係機関定例会」を隔週で開催し、連携を図りました。なお、この定例会は3



写真－2 強靱ワイヤーネット（国土交通省より提供）

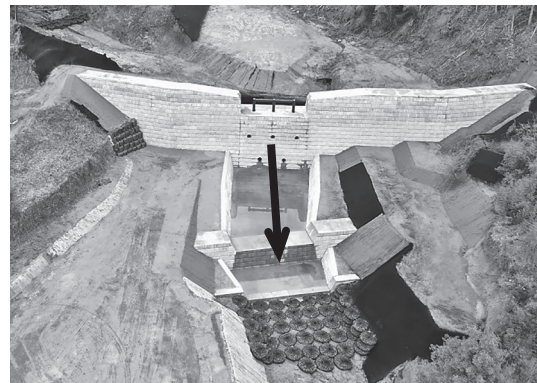
年を過ぎた現在でも益々重要性を増しています。

5. 進む改良復旧事業

被災地域の声をしっかり受け止め、関係機関に積極的な働きかけ、ご理解をいただき、被害を受けた多くの河川や砂防施設において、国、県、市が連携して改良復旧に取り組んでいます。

砂防は、被害が甚大であった赤谷川流域において、30溪流で国土交通省による直轄砂防事業（砂防堰堤等）が計画され、13溪流で砂防堰堤が工事中です（写真－3）。また、県でも34溪流で砂防事業（砂防堰堤等）が計画され、2溪流は工事完了、17溪流で工事中です。急傾斜地崩壊対策事業（法面工）は、9地区で計画され、全地区とも工事が完了しています。地すべり対策事業は、3地区で計画され、2地区は工事完了し、残り1地区は工事中です。

市管理河川である寒水川は、全区間が砂防指定区域であることから、県による砂防事業が進めら



写真－3 完成した赤谷川06溪流砂防堰堤
（国土交通省より提供）



写真－4 完成した桂川護岸（福岡県より提供）

れています。

河川は、全国初となる権限代行で国土交通省により3河川（赤谷川、乙石川、大山川）の改良復旧が実施中です。県では、8河川（佐田川、疣目川、桂川、荷原川、新立川、妙見川、北川、白木谷川）の改良復旧が実施中です（写真－4）。市管理河川においても平川、奈良ヶ谷川（通堂川）、小河内川の改良復旧を実施しています。

6. 復興の取り組み

本市では、災害復旧と合わせて、安心して暮らせるまちづくりのため、「住宅施策」「防災拠点整備」「災害伝承広場整備」などの復興施策を進めています。

「住宅施策」は、安全な地域での被災者住宅再建を進めるため、2地区で「すまいの再建促進宅地分譲事業」を進めています。また、堆積土砂を活用した被災宅地及び公共施設の一体的な嵩上復旧を行い、すまいの現地再建及び生活環境の向上を図るとともに、安全性の向上したまちづくりを実現するため、補助事業の拡充により全国初となる宅地耐震化推進事業（宅地嵩上げ）を3地区で進めています。

「防災拠点整備」は、国の補助事業を活用し、小学校跡地などの公有地に防災拠点施設や防災広場の整備を進めており、久喜宮地区では、令和3年出水期前までの供用開始を目標として急ピッチで工事を行っています。

「災害伝承広場整備」は、甚大な被害を受けた松末地域で、土砂災害の経験と教訓を後世に継承・発信するため、被害の状況だけでなく、防災



図－3 災害伝承広場の整備イメージ

学習の拠点としても活用できるよう、関係機関と連携して整備を検討しています（図－3）。

ソフト対策として、市内全17地区で自主防災組織が設置されており、各地区で自主防災マップを作成し、全戸配布を行っています。このマップは、住民によるワークショップ手法により作成したものであり、地域の実情に合ったハザードマップとなっており、事前に避難場所や避難経路を確認するとともに、家族や近所の方々の連絡先等を日頃から確認するなど、市民一人ひとりの防災意識の向上を期待しています。さらに、防災士の資格取得費の補助を行い、自主防災組織と連携して防災の専門的知識を有する人材を育成し、地域防災力の向上に取り組んでいます。

また、市では平成29年7月九州北部豪雨の教訓から、7月5日を「市民防災の日」とし、出水期を迎える前などに防災シンポジウムの開催などを行っています。

7. おわりに

私は被災後に就任しましたが、就任当初より、九州北部豪雨災害からの復旧・復興は最重要課題であり、「ふるさとを取り戻す」の理念の基、1日も早い復旧と将来世代に渡って安心して暮らせるまちづくりに取り組んで参りました。

平成30年、令和元年、令和2年と毎年のように続く豪雨災害、更には、世界中に拡大しております新型コロナウイルス感染症が復旧・復興にも影響を与えていますが、国をはじめ、県や他市町村などの暖かいご支援とご尽力により復旧・復興は着実に進んでおります。

引き続き、関係機関のご支援、ご協力をいただきながら、復旧の加速化を進め、土砂災害や水害に対する防災・減災に取り組み、災害に強いまちづくりを目指して参りたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、発災直後より、全国の方々からの物資支援や、多数のボランティアの皆様が駆けつけ本市を力づけていただきましたことに、深く感謝いたします。